

三月定例能番組

平成三十一年三月三日(日) 午後一時始
於石川県立能楽堂

(能)

三

ツレ 笠間 啓

シテ 高橋 右任

山 ワキ 平木 豊男

ワキツレ 北島 公之

間炭 哲男

大鼓 飯嶋六之佐
小鼓 住駒 俊介

笛 室石 和夫

後見 佐野 由於
福岡 聡子

休憩 二十分

地謡

山本 貢伸 渡邊 茂人
酒井 章 渡邊 荀之助
木谷 哲也 島村 明宏
田屋 邦夫 藪 克徳

田村

(連吟)

地謡

高野 秀幸
船本 嘉人
長野 裕
水口 純治
米島 和秋

蝸

牛

(狂言)

山伏 中尾 史生

主人 山田 讓二
太郎冠者 能村 祐丞

後見 荒井 亮吉

(能)

春日龍神

シテ 松田 若子

ワキ 殿田 謙吉

ワキツレ 北島 公之

ワキツレ 渡貫 多聞

間炭 光太郎

大鼓 田中 一義 太鼓 大橋 紀美
小鼓 住駒 幸英 笛 矢郷由香子

後見 藪 俊彦
渡邊 茂人

地謡

岩井 嘉樹 佐野 玄宜
中村 清 広島 克栄
山崎 健 高橋 憲正
松本 博 佐野 弘宜

終了 午後四時半頃

能 三 山 (みつやま)

大原の良忍聖一行(ワキ・ワキツレ)が融通念仏を広めるために大和の国に入り、名所の三つ山近くまで来ます。そこへ里の女(前シテ)が現れ、万葉集で有名な大和三山のいわれを物語ります。それは香久山に住む柏手(膳)の公成をめぐる二人の妻の争いでした。公成は初め畝傍山の桜子と耳無山の桂子を平等に愛しましたが、いつしか華やかな桜子の方に心が傾くようになりました。羨んだ桂子は耳無の池に身を投げたということです。跡を吊い桂子の名を念仏の名帳に入れるよう聖に頼んで、女は池の底に消えます(中入)。やがて回向する聖の前に桜子を名乗る別の女(ツレ)が現れ、自分を狂わせる嵐を除けてくださいと頼みます。追いかけて桂子(後シテ)も再度出現します。彼女は桜子の美しさが妬ましくてならない様子です。興奮した桂子は手にした桂の枝で思うさま後妻の桜子を打ち据えますが、恨みが晴れたか、二人とも成仏することを願って去ります。

狂言 蝸 牛 (かぎゅう)

主人の祖父の長寿のために、蝸牛を取りに遣わされた太郎冠者は、藪で寝ている山伏を見て、藪に住む蝸牛とはこの人かと思ひ、蝸牛殿ではござらぬかと声を掛けます。驚いた山伏は、虚け者をなぶってやろうと、冠者の確かめる蝸牛の特徴、貝(ほら貝)や角(篠懸)を出して見せ、乞われるままに主人の館へ、離し物にのって行きます。この離し物が楽しくて、主人の叱責もうわの空、山伏と知って追おうにも、法力相手ではかないません。

能 春日龍神 (かすがりゆうじん)

梅尾高山寺の明恵法師(ワキ)が入唐渡天の志を立て、暇乞いのため春日明神に参詣します。そこへ神域を賛美する宮守の老人(前シテ)が現れ、明神の信頼厚い明恵が日本を去ることの非を説きます。しかも釈尊は天竺になく、今は春日に垂迹したまい、まことの浄土はこの地にあるというのです。釈尊ゆかりの霊鷲山や鹿野苑が春日に重ね見られるだけでなく、天台山なら比叡山、五台山は吉野・筑波と同じこと、唐・天竺に渡るまでもあるまい、思いとどまるなら三笠の山に天竺を映し、釈尊の遺跡のすべてを見せよう、そういう私は時風秀行であると名乗って、老人は消え去ります(中入)。やがて神託のとおり春日の野山に金色に輝く仏の世界が顕現し、百千眷属を率いた八大竜王が下界の水宮から参会する、空海かけた大パノラマが展開します。釈尊の八相を目の当たりにした明恵は入唐渡天を思いとどまり、その意思を確かめた竜神(後シテ)は猿沢の池に没します。

(金沢大学人間社会学域教授 西村 聡)

次月の予定 平成三十一年五月五日(日)午後一時始

(能) 放下僧 (狂言) 清水 (能) 羽衣